

# とよなか

(部内資料)

子ども達の豊かな成長・発達のために皆で力を合わせましょう!

教え子を再び戦場に送るな! 2016年9月8日発行NO.569

## 戦後71年 子どもたちと いっしょに読みたい戦争文学作品



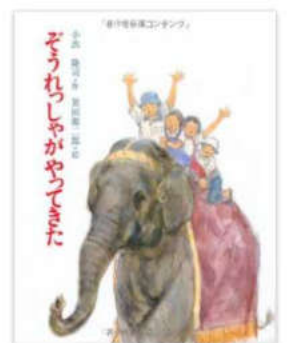
『ちいちゃんのかげおくり』  
(あまみきみこ)

2学期が始まりました。この夏も、テレビなどで戦争についての番組がありました。直接戦争を体験をしたことのない国民が8割をこえたと報道されました。悲惨な空襲体験、戦中戦後の悲惨な体験、原爆被爆体験、戦場での地獄のような体験をした人たち少なくなくて、戦争をリアルに知るところが、今こそ大切になっています。国語の教科書には戦争文学作品が掲載されています。しかし、今は、以前ほど戦争平和が当たり前になっている今こそ、子どもたちといっしょに平和・戦争に関する文学作品を読んでみませんか。現在または、かつて教科書に掲載されていたものを中心に紹介します。  
\*は教科書掲載でない作品



『かわいそうなぞう』  
(土屋由岐雄)  
\*『ぞうれつしやがやってきた』  
(小出隆二)

『ぞうれつしや』は教科書教材ではありませんが、合唱組曲になって学習発表会などで演じられています。



『一つの花』  
(今西祐行)



豊中の使用する教科書にも掲載されている作品。5社中4社が今も掲載。



『おかあさんの木』  
(大川悦生)

昨年、映画化もされています。



『チロヌツプのきつね』  
(高橋宏幸)



『おこりじぞう』  
(山口勇子)



『村一番のさくらの木』  
(来栖良夫)



『川とノリオ』  
(いぬいとみこ)



『ヒロシマのうた』  
(今西祐行)



『石うすの歌』  
(壺井栄)

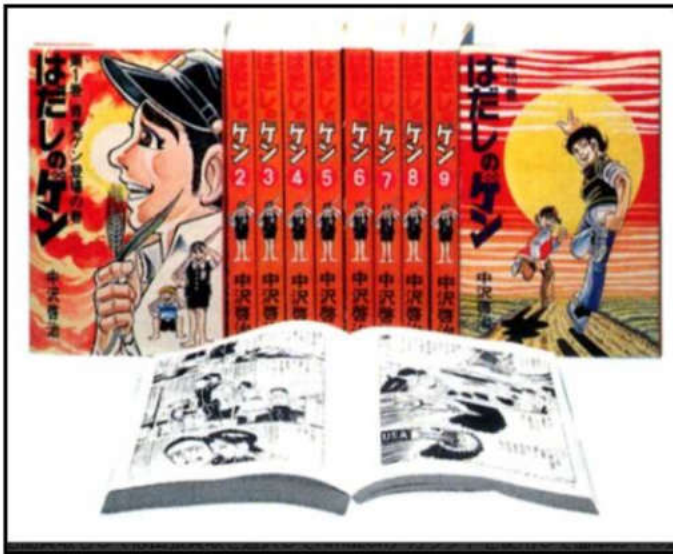


壺井栄といえば、「二十四の瞳」が有名です。映画化やドラマ化されています。原作だけでなくDVDなどでも是非知ってほしい作品です。

『父ちゃんの凧』  
(長崎源之助)



世界で翻訳される原爆の悲惨さ伝える『はだしのゲン』



作者中沢啓治による、自身の原爆の被爆体験を元にした自伝的漫画。実写映画やアニメ映画・テレビドラマも製作されています。英語・フランス語・ドイツ語・イタリア語・韓国語・ロシア語、スペイン語等も出版され、外国でも読まれています。今年、作者の中沢啓二が生前、2009年8月20日付でオバマ大統領あてに手紙を送っていたことがわかりました。被爆者も高齢になり、体験を直接聞くことも難しくなっています。

図書館でも古くなかったものが多いかもしれませんが必ず置かれてはいるはずで、原爆のおそろしさを、当時の日本の社会の様子を知ることで、知るべきです。

## 「21世紀にふさわしい教育を」

「部落問題学習」を考えるQ&A  
大阪教育文化センター「部落問題解決と教育」研究会

Q3 「部落」「被差別部落」「同和地区」は今もあるのですか。

A3 大阪府教委「生徒から聞かれたとしても『今はもうないよ』という」

教科書には「被差別部落」「同和地区」というものがあって、その出身者は「今もなお」差別されるといように書いています。

今はもう「部落」「被差別部落」「同和地区」はありません。

大阪府教育委員会も「生徒から聞かれたとしても『今はもうないよ』という」と繰り返し述べています。大阪市教育委員会も「ないといえます」と即答しています。

教科書の記述は事実をふまえていません。資料も20世紀のものが多く時代錯誤です。教科

書もまちがうという一つの例です。かつて特別対策をすすめるために、行政が地域を指定したことはありますが、それは事業のための線引きであり、「ここは部落」と行政が認定したものと誤解してはなりません。

